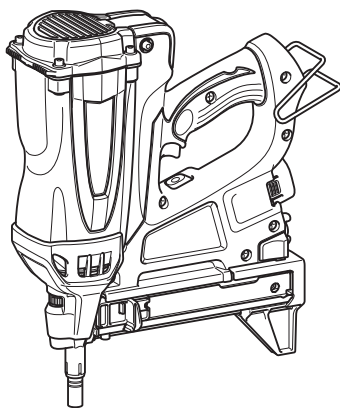
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

コンクリート用 ガスピン打ち機

モデル GN420C

このたびは**コンクリート用ガスピン打ち機**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

目次

主要機能

主要機能 ＼ モデル	GN420C
動力	コアレスモータ 燃料ガス
バッテリ	リチウムイオンバッテリ
	バッテリ BL7010
	打ち込み本数：約 4,000 本 /1 充電あたり※
電圧	直流 7.2 V
使用ピン	線径 φ 2.6 ～ 3.1 mm
ピンの装てん数	20 本（2 連×10 本）
本機寸法	長さ 315 mm ×幅 108 mm ×高さ 390 mm
質量（バッテリ、ガス缶含む）	3.7 kg

※使用環境やバッテリの状態などで変化します。

充電器	DC07SA
入力電圧	単相交流 100 V
入力周波数	50-60 Hz
入力容量	45 VA
出力電圧	直流 7.2 V
出力電流	直流 2.4 A

- 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

注意文の ⚠ 警告 ・ ⚠ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠ 警告 と ⚠ 注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。 なお ⚠ 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

安全上のご注意

JPA011-2

ガスピン打ち機は、本機内部で燃料ガスと空気の混合物に点火・燃焼させ、そのエネルギーでピンを打つ構造となっています。
本機・ガス缶・バッテリ・充電器の取り扱いについては取扱説明書をよく読み、十分注意して使用してください。

- 火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
   - 本機の取扱知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本機を使用しないでください。
   - 事故の原因になります。
     ○疲れているとき、身体が不調なとき。
     ○酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 保護メガネを使用してください。
4. ピン打ち機の打撃音などから耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
5. 作業環境に応じてヘルメット・安全靴などの防具を着用してください。
6. 専用のガス缶・バッテリ・充電器を使用してください。
   - この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定のガス缶・バッテリ・充電器を使用してください。
   - 指定以外のガス缶やバッテリを使用すると、爆発や火災、破裂の恐れがあり、事故の原因になります。
7. ガス缶・バッテリを取り付ける前に次の点検をしてください。
   - 本機のネジ類の締め付けがゆるんでいたり、抜けていたりしていないか。
   - 各部部品が損傷したり、はずれていたりしていないか。
     異常のあるまま使用すると、けがや本機破損の原因になりますので、異常のあるときは、お買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
8. ガス缶・バッテリを取り付けるとき、ピンを装てんするときは、次のことに注意してください。
   - 射出口を人に向けないでください。
   - 誤ってピンが発射した場合、けがの原因になります。
9. 用途にあった作業に使用してください。
   - このピン打ち機は木材を介してコンクリートへピン打ちをする作業と薄鋼板をコンクリートにピン止めする作業を目的とした工具です。
   - 指定された用途以外には使用しないでください。

⚠ 警告

10.指定のピンを使用してください。

・ 指定されたピン以外の物を使用すると、けがや本機の故障の原因になりますので使用しないでください。

11.子供を近づけないでください。

・ 作業者以外、ピン打ち機やガス缶に触れさせないでください。
けがの原因になります。

・ 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
けがの原因になります。

12.作業場は、いつもきれいに保ってください。

・ ちらかった場所は、事故の原因になります。

・ 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。

13.作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。

・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。

作 業 中

1. 人に射出口を向けないでください。

・ 人に射出口を向けて、誤って発射した場合、けがの原因になります。

2. 射出口付近に顔や手、足などの身体を近づけて作業しないでください。

・ 誤ってピンが発射したり、はね返って飛んだりしたときなど、けがの原因になります。

3. ピンを打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

・ ピンが突き抜けたり、材料が欠けたりしたときなどに、けがの原因になります。

4. 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

・ 可燃性の液体やガス（シンナー・ガソリン・塗料・ガス類など）のある所で、ピン打ち機を使用しないでください。
ピンを打ち込むときの火花による引火や、高圧の排気ガスで、爆発や火災を引き起こす恐れがあり、事故の原因になります。

5. 火気に近づけないでください。

・ 作業中はタバコを吸わないでください。

6. 排気口周辺を触らないでください。

・ このピン打機は排気口から熱い排気ガスが出ます。誤って触るとやけどの原因になります。

7. ピン打ち機・ガス缶・バッテリは直射日光を避け、ガス缶は周囲温度40℃以下（推奨保管温度 5℃～ 25℃）の場所で保管してください。また､バッテリは周囲温度50℃を超える場所で保管をしないでください。

・ 爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

8. ピンを打ち込むとき以外は、トリガに指をかけないでください。

・ 持ち運びやピンを装てんするときに、トリガに指をかけたまま行うと、誤ってピンが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠ 警告

9. 次の場合は、ガス缶・バッテリ・ピンをはずしてください。
- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ピン詰まりの直しなどの場合。
- ピン打ち機を移動するときや手渡しする場合。

10. ピンを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。
- 一度打ったピンの上に、再度ピンを打つことはしないでください。ピンがはね返ったり、本機が反発したりすることもあり、けがの原因になります。

11. 作業中はまわりの人に注意してください。
- ピンを連結しているプラスチックおよびコンクリートの破片や、打ち損じたピンが当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。本機や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

12. 薄い板や木材の端にピンを打たないでください。
- 薄い板に打つとピンが突き抜けたり、木材の角に打つとピンがそれたりして、けがの原因になります。

13. 本機の反発に注意してください。
- 本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

14. 壁の両側から同時にピン打ち作業をしないでください。
- 打ったピンが突き抜けたり、壁ぎわのピンがそれたりて、けがの原因になります。

15. 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、ピン打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
けがの原因になります。

16. 屋外での作業は、次のことに注意してください。
- ピン打ち機やガス缶・バッテリ・充電器を直射日光に当てたまま放置しないでください。
ガス缶が破裂するなど、事故の原因になります。
- 屋根などの斜面でピンを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
- 床などの水平面でピンを打つときは、前進しながら作業してください。
後退しながら作業をすると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面にピンを打つときは、上から下へ作業してください。

17. 風通しの悪い場所で使用しないでください。
- 本機から排出される排気ガスを吸い込むと健康を損なう恐れがあります。

18. 雨の中や湿気の多い場所では使用しないでください。
- 感電や発煙の恐れがあります。

⚠ 警告

ガス缶について

1. ガス缶の取り扱いに注意してください。
- ガス缶には、高圧の燃料ガスと噴射ガスが充てんされています。
  ガス缶の保管、移動、本機への取り付け、取りはずし、廃棄時の取り扱いは十分注意してください。取り扱いを誤ると、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
2. タバコなどの火気に近づけないでください。
- 爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
3. ガスを吸わないように注意してください。
- ガスを吸い込むと、めまい、吐き気を起こす恐れがあります。
4. 人に向けて噴射しないでください。
5. ガス缶は直射日光や車内を避け、周囲温度 40℃以下（推奨保管温度 5℃ ~ 25℃）の風通しのよい場所で保管してください。
- ガスが漏れたり、容器が破裂したり、火災や爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- 空になったガス缶にも可燃性の噴射ガスが入っており、噴射ガスが膨張し、容器が破裂する恐れがあり、事故の原因になります。
6. ガス缶を焼却、再充てん、再利用しないでください。
- ガスの再充てんはできません。
7. ガス缶は各自治体の廃棄方法に従って処分してください。
- ガスの排出処理をするときは、周囲温度 40℃以下の風通しがよい火気、可燃物がない野外で、風下に向かって行ってください。くわえタバコをしながらの処理はしないでください。

充電器・バッテリについて

1. マキタ専用の指定のバッテリ以外を使わないでください。
- 改造したバッテリ (分解してセルなどの内蔵部品を交換したバッテリを含む）を使用しないでください。工具本体の性能や安全性なども損なう恐れがあり、けがや故障・発煙・発熱・発火・破裂などの原因になります。
2. バッテリは、火への投入、加熱をしないでください。
- 発熱・発火・破裂の恐れがあります。
3. バッテリにピンを刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。
- 発熱・発火・破裂の恐れがあります。
4. バッテリの端子部を金属などで接触させないでください。
- バッテリを金属といっしょに工具箱やピン袋などに保管しないでください。発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- 本機または充電器からはずした後は、バッテリにバッテリカバーを必ず取り付けてください。
5. バッテリを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しないでください。
- 発熱・発火・破裂の恐れがあります。

⚠警告

6. バッテリは専用充電器以外では充電しないでください。
- バッテリの液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

7. 正しく充電してください。
- 充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く）異常に発熱し、火災の恐れがあります。
- 周囲温度が 10℃未満、40℃以上ではバッテリを充電しないでください。破裂や火災の恐れがあります。
- バッテリは、換気のよい場所で充電してください。バッテリや充電器を充電中、布などで覆わないでください。破裂や火災の恐れがあります。
- 使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。破裂や火災の恐れがあります。

8. バッテリの液が目に入ったら、ただちにきれいな水で十分洗い、医師の治療を受けてください。

9. 使用時間が極端に短くなったバッテリは使用しないでください。

10. 落としたり、何らかの損傷を受けたりしたバッテリは使用しないでください。

11. ラッカー、ペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所では充電しないでください。
- 爆発や火災の恐れがあります。

12. 火災の恐れがあります。次のようなことをしないでください。
- ダンボールなどの紙類、座布団などの布類、畳、カーペット、ビニールなどの上では充電しないでください。
- 風窓のある充電器は、充電中に風窓をふさがないでください。また風窓に金属類、燃えやすい物を差し込まないでください。
- 綿ぼこりなど、ほこりの多い場所で充電しないでください。

13. 充電器のバッテリ装着部には充電用端子があります。金属片・水などの異物を近づけないでください。
- そのまま充電を続けると発煙、発火、破裂の恐れがあります。

14. 充電器は充電以外の用途には使用しないでください。

15. ぬれた手で電源プラグに触れないでください。
- 感電の恐れがあります。

16. 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 充電工具・充電器・バッテリは、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。感電や発煙の恐れがあります。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用したり、充電しないでください。爆発や火災の恐れがあります。

17. 次の場合は、工具のスイッチを切り、バッテリを本機から抜いてください。
- 使用しない、または、修理する場合。
- 付属品を交換する場合。
- その他危険が予想される場合。本体が作動して、けがの恐れがあります。

18. 不意な始動は避けてください。
- バッテリを差し込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。

⚠ 注意

1. 使用しない場合は、盗難や紛失に注意して保管してください。
・ 作業が終了したり、中断して現場を離れるときには本機やガス缶を現場に放置しないでください。ガス缶、バッテリ、ピンを本機から取り出し、乾燥した場所で、子供の手の届かない鍵のかかる所に保管してください。正しい使い方を知らない人による事故や盗難、紛失の恐れがあります。
・ バッテリを、周囲温度が 50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。バッテリ劣化の原因になり、発煙・発火の恐れがあります。
2. 充電工具は注意深く手入れをしてください。
・ 充電器のコードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げ販売店または当社営業所にお申し付けください。
感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
・ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。
感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
3. 充電器のコードを乱暴に扱わないでください。
・ コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張って電源コンセントから抜いたりしないでください。
・ コードを熱・油・薬品・角のある所に近づけないでください。
・ コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
・ 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けたりした充電器は使用しないでください。感電や短絡（ショート）して発火する恐れがあります。
4. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
・ 屋外で充電する場合、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
5. 充電工具の修理は、専門店にお申し付けください。
・ 本機・充電器・バッテリを分解・修理・改造は行わないでください。発火したり、異常動作したりして、けがをする恐れがあります。
・ 本機が熱くなったり、異常に気が付いたときは、点検・修理に出してください
6. 充電中、発熱などの異常に気が付いたときは、ただちに電源プラグを抜いて充電を中止してください。そのまま充電を続けると発煙・発火・破裂の恐れがあります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

⚠ 注意

1. 作業中に本機の調子が悪くなったり、異常に気が付いたときは、ただちに使用を中止してください。
・ そのまま使用していると事故の原因になります。
2. 作業後は、ガス缶、バッテリをはずしてから、ピンを全部抜き取ってください。
・ ピンを残しておくと、次に使用するときに、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。
3. ピン打ち機は、常に手入れをしてください。
・ 安全に能率よく作業していただくために、ピン打ち機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
4. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

●騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制がありますので、ご近所などの周囲に迷惑をかけないようにご使用ください。

コンクリート用ガスピン打ち機安全上のご注意

先にガスピン打ち機として共通の注意事項を述べましたが、コンクリート用ガスピン打ち機として、さらに次の注意事項を守ってください。

JPB211-2

⚠ 警告

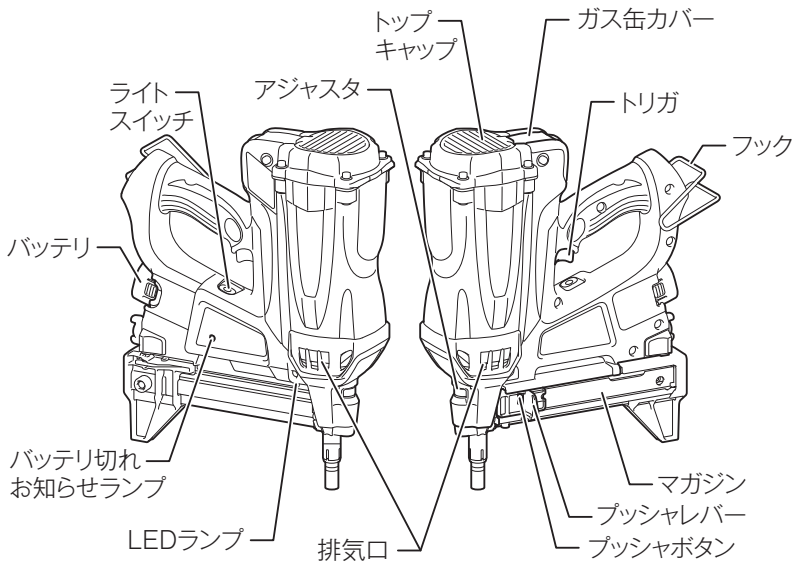
1. ピンは指定のコンクリートピンを使用してください。
   - ピンがコンクリートに入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
2. ピンを打つところにピン打ち機を垂直にして打ってください。
   - 斜めに打つと、ピンがコンクリートに入らず、曲がってはね返ったりする恐れがあり、けがの原因になります。
3. ピンをコンクリートに直接打つ作業はしないでください。
   - コンクリート片がはねたり、曲がってはね返ったりする恐れがあり、けがの原因になります。
4. コンクリートの端にピンを打たないでください。
   - コンクリートが割れて飛散したり、ピンがそれて飛んだりする恐れがあり、けがの原因になります。
5. 物を吊り下げる所（配管の吊り下げなど）へ使用しないでください。

注

- 電源が離れていて延長コードが必要なときは、充電器を最高の能率で支障なくご使用いただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

使用できるコードの太さ（公称断面積）と長さの目安

コードの太さ（導体公称断面積）	コードの長さの目安
2.0 mm^2	30 m

各部の名称および標準付属品

標準付属品

・ セフティゴーグル（保護メガネ）
・ 充電器DC07SA
・ バッテリBL7010
・ 六角棒レンチ4
・ プラスチックケース

別販売品のご紹介

・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店もしくは、当社営業所へお問い合わせください。

・ コンクリートピン・専用ガス缶セット品

材質	長さ (mm)	胴径 (mm)	型式	部品番号	梱包単位（1 箱）
鉄	19	3.1	ピンガスセット品 3119P	F-60604	1 連 10 本 × 100 連 / 専用ガス缶 1 本
	20	2.6	ピンガスセット品 2620	F-60617	
	22	2.6	ピンガスセット品 2622	F-60620	
	25	2.6	ピンガスセット品 2625	F-60633	
	35	2.6	ピンガスセット品 2635	F-60646	
	40	2.6	ピンガスセット品 2640	F-60659	

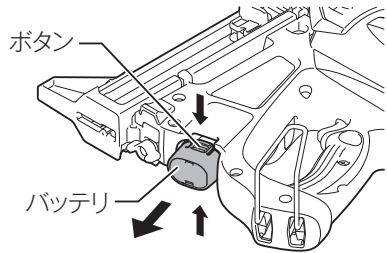
・ バッテリ BL7010
部品番号：A-47494

・ マガジン（ロングサイズ）
部品番号：A-55790

使い方

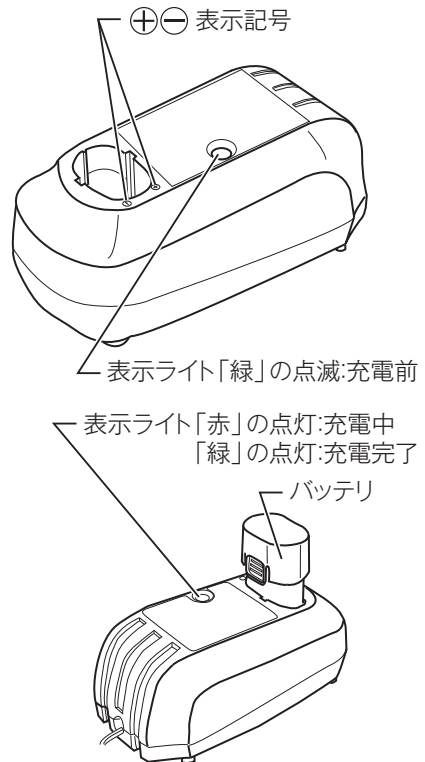
バッテリの取り付け・取りはずし方

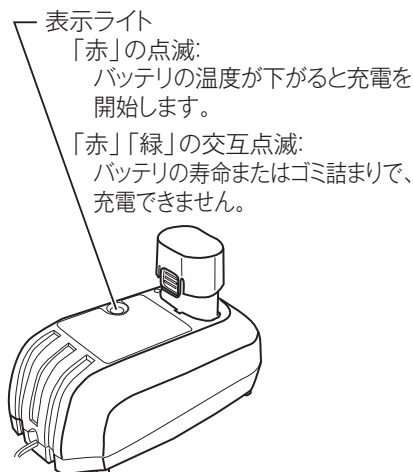
・ バッテリを取りはずすときは、両側のボタンを押しながら、引き抜くと取りはずせます。
・ 取り付けるときは奥まで確実に挿入してください。

バッテリについて

・ お買い上げ時は、バッテリは十分に充電されていません。スイッチを操作すると本機は動く恐れがありますので注意してください。ご使用前に充電器で正しく充電してからご使用ください。

バッテリの充電方法

・ 充電器のプラグを100 V の電源に差し込んでください。表示ライトは「緑」の点滅を繰り返します。
・ バッテリを充電器に挿入してください。挿入には⊕⊖を注意し充電器の挿入ガイドにそって充電器の底に当たるまで入れてください。
・ バッテリを挿入しますと充電表示ライトが「赤」に点灯し充電を開始します。
・ 充電が完了すると充電表示ライトが「緑」の点灯に変わります。
・ バッテリを抜き取り、電源から充電器のプラグを抜いてください。

注

- 使用直後のバッテリや直射日光の当たる所に長時間放置したバッテリを充電されますと充電表示ライトが「赤」の点滅を繰り返す場合があります。このようなときはバッテリの温度が下がると充電を開始します。
- 充電前に十分冷やすことをおすすめします。
- 充電開始後、表示ライトが「赤」、「緑」の交互点滅を繰り返した場合や、バッテリを挿入しても「緑」点滅になる場合はバッテリの寿命またはゴミ詰まりで充電できません。

- 次のような状態のときは、充電器またはバッテリに故障があると考えられますので、充電器とバッテリの両方を、お買い上げの販売店または当社営業所にお持ちください。
  - ×充電器のプラグを 100 V の電源に差し込んでも、表示ライトが「緑」に点滅しない。
  - ×バッテリを挿入しても、表示ライトが「赤」に点灯または点滅しない。
  - ×充電開始後、充電表示ライトが「赤」に点灯した後、1 時間以上たっても充電が完了しない。（表示ライトが「緑」に変わらない。）

バッテリを長持ちさせるには

- 満充電したバッテリを再度充電しないでください。
- 充電は周囲温度10℃～40℃の範囲で行ってください。
- 使用直後などの熱くなったバッテリは、冷やしてから充電してください。

バッテリの回収について

・ 使用済みバッテリはリサイクルのため回収しております。
・ お買い上げの販売店または当社営業所へご持参ください。

リチウムイオンバッテリは
リサイクルへ

充電器の点検・修理・保管について

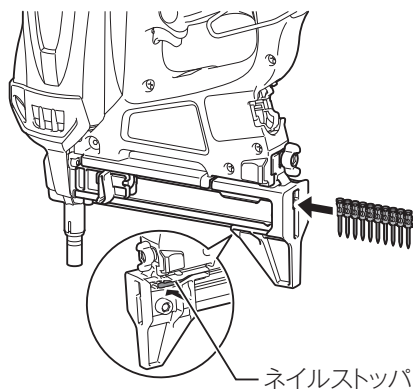
・ いつも安全に能率よくお使いいただくために定期点検をおすすめします。修理・点検はお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。
・ 充電器の保管場所として次のような場所は避けてください。
　× お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せたりする所
　× 温度や湿度の急変する所
　× 湿気の多い所
　× 直射日光の当たる所
　× 揮発性物質の置いてある所

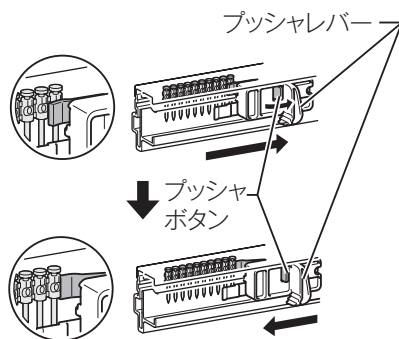
使い方

ピンの装てん

⚠ 警告

ピンを装てんする場合は、必ずガス缶、バッテリをはずしてください。
・ 誤ってピンが発射されたとき、事故の原因になります。
ピンを装てんする場合は、射出口を下に向け、トリガから指をはなしてください。

・ マガジン後方からピンを入れます。
ピンはネイルストッパにより入口で止まります。ネイルストッパのボタンを押してストッパを解除してピンを入れてください。
ピンは２連× 10 本（20 本）入ります。

・ プッシャレバーをマガジン後方まで引っ張り、静かに戻します。

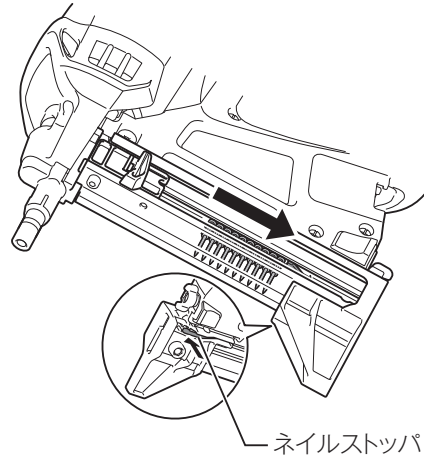
注

・ プッシャレバーを戻す際、プッシャボタンを引いたまま行うとピンがセットされません。装てんはプッシャボタンを引かずに行ってください。
・ プッシャレバーを急にはなすとプッシャが急に戻りピンが変形したり、ばらばらになったりして、ピン詰まりの原因になります。プッシャレバーは静かに戻してください。

使い方

ピンの抜き取り方

⚠ 警告

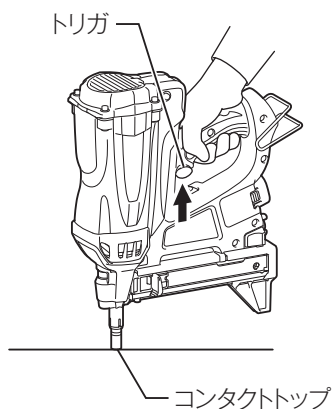
ピンを抜き取る場合は、必ずガス缶・バッテリをはずしてください。
・ 誤ってピンが発射されたとき、事故の原因になります。

・ プッシャレバーを引いて、プッシャボタンを押したままプッシャレバーを先端まで戻します。ピンをマガジンの後方にスライドさせると、ネイルストッパによりピンはマガジン入口で止まりますので、ネイルストッパのボタンを押し、ストッパを解除してピンを取り出してください。

空打ち防止機構について

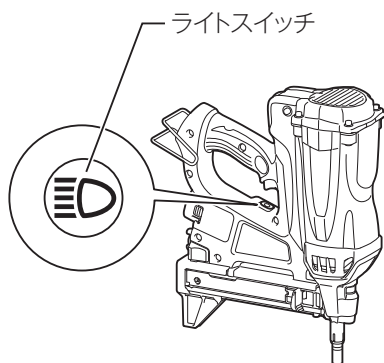
・ 本機には空打ち防止機構が装備されています。ピンの残りが約2～3本になりますと打てなくなります。続けてお使いになる場合はピンを補充してください。

打ち込み方法

・ このピン打ち機は単発打ち専用となっています。コンタクトトップを打ち込み対象物に押し当ててからトリガを引いたときピンを発射します。トリガを引いたまま、再度コンタクトトップを押し当ててもピンは発射しません。
・ トリガを戻し、コンタクトトップを押し当ててからトリガを引いてください。

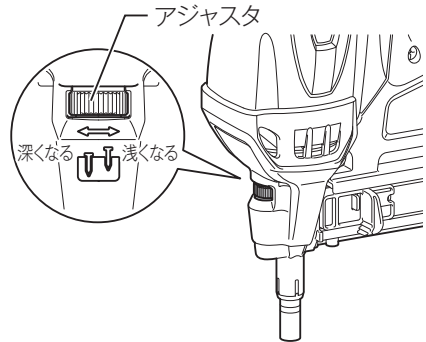
動作は以下のようになります。
①打ち込み対象物にコンタクトトップを押し当てる。
②トリガを引く。

ライトの点灯

⚠ 警告
ライトの光を直接のぞき込んだり、目に当てたりしないでください。 ・ ライトの光が連続して目に当たると目をいためる原因になります。

・ ライトスイッチを押すと点灯し、再度押すと消えます。

アジャスタ（打ち込み深さ調整）の操作方法

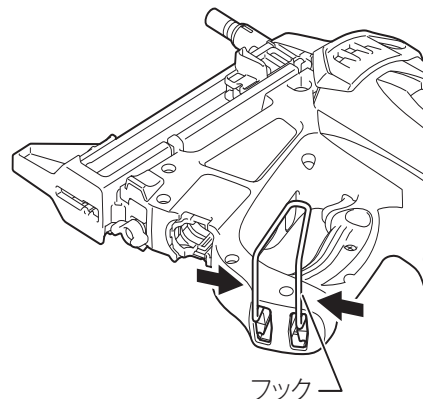
⚠ 警告

打ち込み深さを調整されるときは、ガス缶・バッテリを取りはずしてください。
・ 誤ってピンが発射されたとき、事故の原因になります。

・ 本機はピンの打ち込み深さを調整する、アジャスタを装備しています。
・ 打ち込み深さを浅くするには図のようにアジャスタを右に回転させてください。打ち込み深さを深くするには、アジャスタを左に回転させてください。
アジャスタが動かなくなる恐れがありますので、アジャスタをまわしすぎないでください。
・ 打ち込み調整幅は4.5 mmです。
（1 回転で約 1 mm の調整ができます。）

⚠ 警告

フックの位置を変える場合や、使用の際は必ずバッテリ・ガス缶をはずしてください。
フックを腰のベルトなどにかけないでください。
・ フックがはずれて本機が落下した場合、事故の原因になります。

フックの使い方

・ フックは2段階に位置を変えられます。
・ 位置を変えるには、フックの両側を押しながらスライドさせてください。

使い方

ガス缶の準備と装てん

・ガス缶には、内側容器に燃料ガス、外側容器には噴射ガスが充てんしてあり、噴射ガスの圧力で燃料ガスを押し出す構造になっています。そのため、内側容器の燃料ガスを使い切った後も、外側容器の噴射ガスが残っていますので、空になったガス缶の処理についても十分注意してください。

⚠ 警告

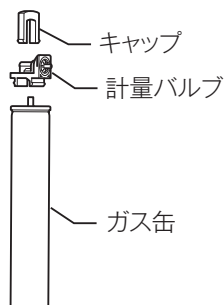
ガス缶は必ず専用のガス缶を使用してください。
ガスは可燃性のため、火気と高温に注意してください。
炎や火元にガスを噴射しないでください。
火の中に入れないでください。
ガス缶を取り扱うときは、タバコを吸わないでください。
ガスを人に向け噴射したり、吸い込んだりしないでください。
直射日光が当たる所や周囲温度が 40℃以上（推奨保管温度 5℃～ 25℃）の所に保管しないでください。
低温での使用は避けてください。
子供など作業者以外は近づけないでください。
使用後、ガス缶は焼却、再充てん、再利用しないでください。

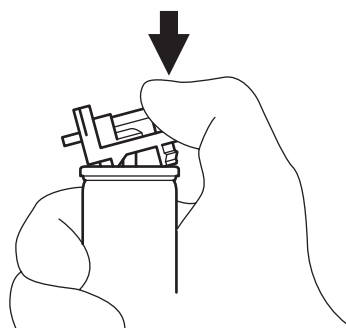
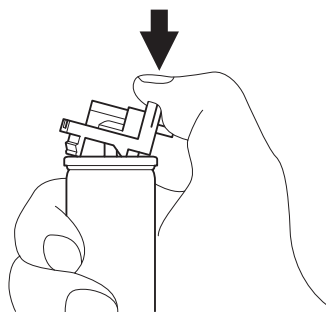
計量バルブの取り付け方

⚠ 警告

計量バルブはガス缶に正しく取り付けてください。

・取り付けが正しくないと、ガスが噴射されないだけでなく、ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。

・ガス缶から、キャップと計量バルブを取りはずしてください。

使い方

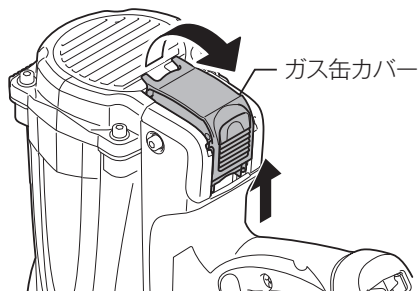
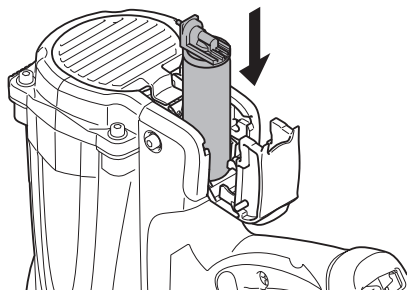
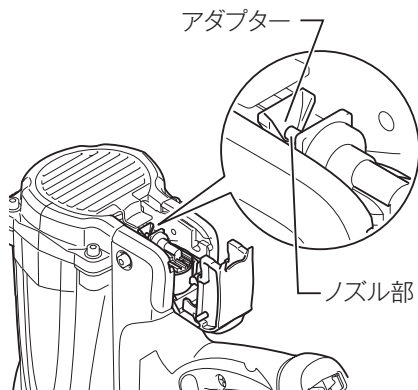
・ ガス缶の凹部に計量バルブの凸部を合わせます。
・ 計量バルブの前部を押し込み、後部側を「カチッ」と音がするまで押し込みます。

注

・ 計量バルブ取り付け後、計量バルブやガス缶からガスが漏れているときは、新しい計量バルブを再度取り付けてください。
・ 一度使用した計量バルブは再利用しないでください。

ガス缶の装てん

⚠ 警告

ガス缶を装てんするときはバッテリをはずし、トリガから手をはなしてください。

・ ガス缶カバーを上に押し上げ、カバーを手前に開きます。

・ ガス缶を差し込みます。

・ ガス缶のノズル部をアダプターの穴にはめ込みます。
・ ガス缶カバーを閉じてください。

ご使用前の確認

安全装置について

⚠ 警告

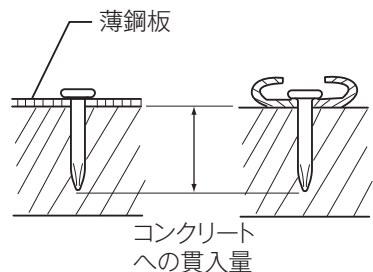
安全装置に異常がある場合は使用しないでください。
・ そのまま使用すると事故の原因になります。
異常があるときはお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

・ このピン打ち機はコンタクトトップを押し当てた後、トリガを引くという操作が重ならないとピンが発射されない構造になっています。従って、トリガを引いただけのとき、または、コンタクトトップを打ち込み対象物に押し当てただけではピンは発射されません。これは、誤ってトリガを引いたり、コンタクトトップを押し当てただけで、ピンが発射されることを防ぐためです。

ピン打ち作業について

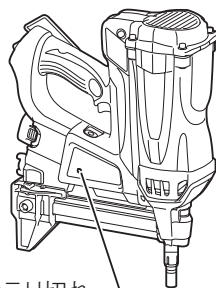
⚠ 警告

ピンは当社指定のコンクリートピンを使用してください。
・ 指定外のコンクリートピンを使用しますと、事故の原因になります。
ピンを打つ所にピン打ち機を垂直にして打ってください。
・ 斜めに打つとコンクリートの破片、ピンがはね返り、事故の原因になります。
物を吊り下げる所（配管の吊り下げなど）へ使用しないでください。
・ 事故の原因になります。

・ コンクリートへの貫入量が15～20 mmになるようにピンを選定してください。

注

・ 本機は、打設後まもない、軟らかいコンクリートのみに使用してください。堅いコンクリートに使用すると、ピンが曲がったり、十分に打ち込めなかったりすることがあります。
・ コンクリートへの貫入量が 20 mm より深い場合、十分に打ち込めないことがあります。

バッテリ切れお知らせランプについて

・ 本機を使用時に、バッテリ切れお知らせランプによりバッテリの状態を確認できます。

バッテリ切れお知らせランプの状態と対応

バッテリ切れお知らせランプ	状態	対応
赤点滅	バッテリ残容量が少ない。	バッテリを充電してください。
赤点灯	バッテリ残容量低下により本機が作動しない。	バッテリを充電してください。
緑と赤の交互点滅後、オレンジ色の点滅	バッテリを挿入し直してください。まだ同じ表示をするようでしたら本機が故障しています。	販売店または当社営業所に修理をお申し付けください。
緑点滅	待機状態	—

保守・点検について

⚠ 警告

点検・整備の際には必ずバッテリおよびガス缶を取りはずし、ピンをすべて抜き取ってください。

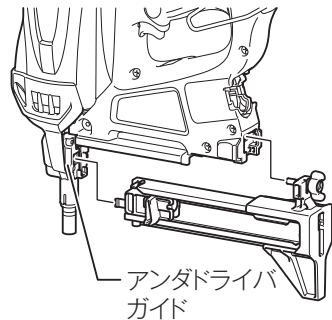
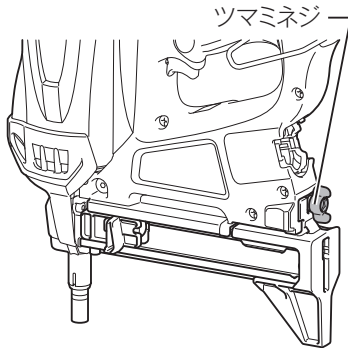
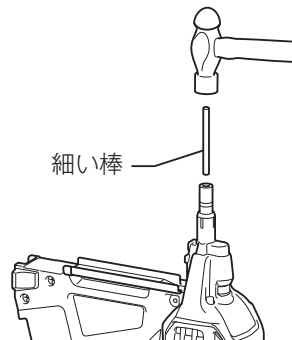
・ バッテリおよびガス缶を付けたまま、また、ピンが装填されたまま行うと、事故の原因になります。

ピン詰まりの直し方

⚠ 警告

マガジンをもとに戻すときには、アンダドライバガイド側に完全に密着させてから、ツマミネジをしっかり締め付けてください。

・ ツマミネジがしっかりと締まっていない状態で操作すると、ピン送りの不良や本機の故障の原因になります。

・ バッテリおよびガス缶を取りはずし、マガジン後部からピンを抜き取ります。
・ マガジンを押さえて、マガジン後部のツマミネジをゆるめてマガジンをはずします。

・ 細い棒を射出口内に入れて、ハンマで徐々にたたいてください。

注

・ ピン詰まり時には、ガス缶カバーがあけにくいことがあります。

ピンの取り扱い方

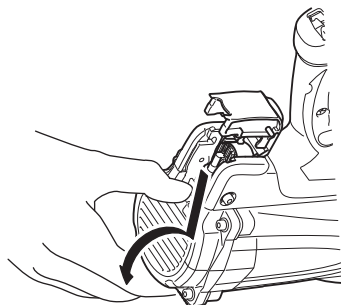
ピンはていねいに取り扱ってください。

・ ピンを落とすと、プラスチック連結部が切れたり、ピンがはずれたりすることがあります。そのままの状態で使用しますと、ピン送り不良により、空打ち、ピン詰まりの原因になります。

ピンは長時間外気や直射日光にさらさないでください。

・ さびの発生や、プラスチック連結シートに不具合が生じる場合がありますので、箱などに入れてください。

フィルターの清掃

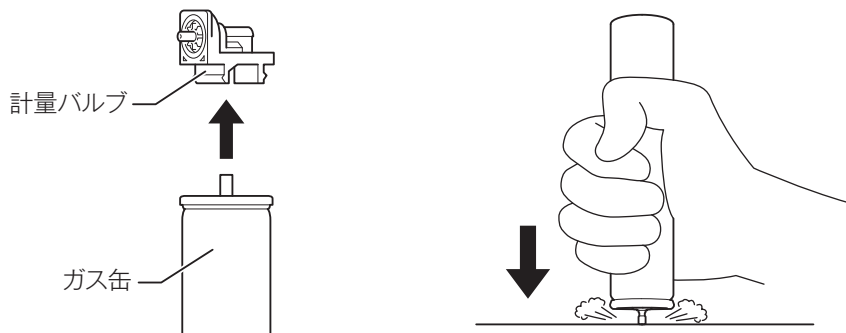
・ フィルターは定期的に清掃してください。ガス缶カバーをあけ、トップカバーとフィルターをはずして行ってください。
・ フィルターが目詰まりや破損したときは、新品のフィルターと交換してください。

使用済みガス缶の処理

・ ガス缶は容器が二重構造のため必ず処理の方法を守ってください。

⚠ 警告

使用済みガス缶を火中に投入しないでください。
ガスの排出処理をするときは、周囲温度 40℃以下の風通しがよい火気・可燃物がない野外で、風下に向かって行ってください。くわえタバコをしながらの処理はしないでください。

燃料ガスを使い切った後、次の方法で噴射ガスの処理を行ってください。

・ 計量バルブをガス缶から取りはずします。
・ 次にノズル部を下に向け、ノズルを数回強く押し付けると、噴射ガスが出ます。

燃料ガスと噴射ガスを排出後、空き缶は各自治体の廃棄方法に従って処分してください。

保守・点検について

本機のお手入れ

・ 乾いた布か石けん水を付けた布できれいに拭いてください。

注

・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

ご修理の際は

・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店または当社営業所に申し付けください。